

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【四半期会計期間】 第41期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時 機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安 部 一 夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安 部 一 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第40期	第41期	第40期
		第2四半期 連結累計期間	第2四半期 連結累計期間	第40期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(千円)	8,524,802	8,416,601	16,947,306
経常利益	(千円)	157,492	155,740	320,438
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	80,474	63,626	149,275
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	81,991	61,424	151,502
純資産額	(千円)	6,179,190	6,309,298	6,248,017
総資産額	(千円)	15,158,527	15,025,160	15,467,426
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	37.63	29.75	69.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	40.8	42.0	40.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	503,898	117,153	1,290,032
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	560,570	178,475	690,698
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	74,155	418,552	168,495
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,453,297	2,387,291	2,864,532

回次		第40期	第41期
		第2四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失()	(円)	2.05	10.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移したものの、記録的な猛暑・豪雨・台風等の異常気象の影響や原油価格の上昇等により個人消費は力強さを欠くものとなりました。また、海外においては、米中貿易摩擦に見られる保護主義の台頭や地政学リスクが懸念され、先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、牛肉・米等の原材料価格の高騰、また働き方改革、継続的な人手不足やアルバイト・パート時給の上昇等もあり、人件費を中心に販管費が上昇しております。また、消費者の生活防衛意識が一層高まる等、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高84億16百万円（対前年同期比1.3%減）、営業利益1億69百万円（対前年同期比1.0%増）、経常利益1億55百万円（対前年同期比1.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益63百万円（対前年同期比20.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は187店舗であります。内訳は直営142店舗、暖簾13店舗、FC32店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「映画『焼肉ドラゴン』コラボフェア」、「とろ〜りチーズと韓国グルメフェア」、「学割キャンペーン」、「旬野菜・夏焼肉フェア」、「夏真っ盛り！ウキウキ宝くじ」、「ハッピーアワークーポン」、「お盆スペシャルクーポン」、「肉の日1.5倍増量キャンペーン」、映画『パパはわるものチャンピオン』とのコラボ「俺が焼肉チャンピオンフェア」、「シルバーウィーククーポン」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアやキャンペーンを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は70億5百万円（対前年同期比0.9%減）となり、セグメント利益（営業利益）は3億73百万円（対前年同期比1.4%減）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営24店舗、暖簾2店舗、FC2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、毎月恒例の「七輪房の日」、「肉の日クーポン」等、メルマガやLINEによるクーポン配信を行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は12億4百万円（対前年同期比3.7%増）となり、セグメント利益（営業利益）は79百万円（対前年同期比18.1%減）となりました。

その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営4店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「ロンチャン(中華)」、「AGRICO(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は2億6百万円(対前年同期比30.5%減)となり、セグメント損失(営業損失)は3百万円(前年同期はセグメント損失13百万円)となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ4億42百万円減少し、150億25百万円となりました。これは、借入金の返済による現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ5億3百万円減少し、87億15百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ61百万円増加し、63億9百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、4億78百万円減少し、23億87百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上1億47百万円、減価償却費の計上2億86百万円等により1億17百万円の収入となりました。前年同期と比べ3億86百万円(対前年同期比76.8%)の収入の減少となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億83百万円等により1億78百万円の支出となりました。前年同期と比べ3億82百万円(対前年同期比68.2%)の支出の減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入1億50百万円、長期借入金の返済による支出4億58百万円等により4億18百万円の支出となりました。前年同期は74百万円の収入でありました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(注) 平成30年8月21日開催の取締役会決議により、平成30年8月31日付で自己株式の消却を行っております。これにより発行済株式総数が11,000株減少しております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年8月31日 (注)	11,000	2,139,434		3,182,385		147,735

(注) 平成30年8月21日開催の取締役会決議により、平成30年8月31日付で自己株式の消却を行っております。これにより発行済株式総数が11,000株減少しております。

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	240	11.22
柳 時 機	さいたま市浦和区	171	8.00
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	100	4.68
株式会社北与野エステート	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	98	4.61
柳 允	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 詠 守	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 京	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 先	文京区小日向	55	2.62
柳 朱 理	渋谷区代々木	55	2.62
株式会社Be-fresh	幸手市北二丁目6 - 5	53	2.50
計		943	44.11

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,125,700	21,257	
単元未満株式	普通株式 12,834		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,257	

- (注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式85株が含まれております。
2. 平成30年8月21日開催の取締役会決議により、平成30年8月31日付で自己株式を消却しております。これにより発行済株式総数及び自己株式が、それぞれ11,000株減少しております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	900		900	0.04
計		900		900	0.04

- (注) 平成30年8月21日開催の取締役会決議により、平成30年8月31日付で自己株式11,000株の消却を行っております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,865,547	2,388,307
受取手形及び売掛金	415,774	364,197
商品及び製品	133,869	150,206
仕掛品	854	1,340
原材料及び貯蔵品	475,929	664,473
前払費用	202,916	214,598
その他	96,727	91,803
貸倒引当金	226	220
流動資産合計	4,191,392	3,874,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,880,068	2,854,908
機械装置及び運搬具（純額）	100,151	91,552
工具、器具及び備品（純額）	355,084	331,766
土地	5,003,923	5,003,923
リース資産（純額）	54,545	35,246
建設仮勘定	2,255	2,855
有形固定資産合計	8,396,029	8,320,252
無形固定資産		
のれん	54,460	47,652
その他	131,862	131,438
無形固定資産合計	186,322	179,091
投資その他の資産		
投資有価証券	94,931	90,079
長期貸付金	6,377	6,173
長期前払費用	21,149	20,544
繰延税金資産	142,875	134,561
敷金及び保証金	2,416,304	2,388,853
その他	38,333	37,083
貸倒引当金	26,289	26,186
投資その他の資産合計	2,693,682	2,651,108
固定資産合計	11,276,033	11,150,452
資産合計	15,467,426	15,025,160

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	624,620	673,636
短期借入金	901,818	3,379,681
リース債務	40,802	31,711
割賦未払金	188,346	196,772
未払金	169,967	209,606
設備関係未払金	75,226	19,166
未払費用	506,328	459,997
未払法人税等	149,631	131,493
未払消費税等	126,076	90,121
賞与引当金	72,800	70,500
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	569,890	483,822
流動負債合計	3,438,806	5,759,804
固定負債		
長期借入金	4,367,797	1,581,884
リース債務	16,786	5,259
長期割賦未払金	577,561	544,755
繰延税金負債	105,383	105,878
役員退職慰労引当金	351,481	360,537
転貸損失引当金	49,430	42,782
退職給付に係る負債	213,628	217,425
その他	98,534	97,534
固定負債合計	5,780,602	2,956,056
負債合計	9,219,409	8,715,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,472,098
利益剰余金	599,159	662,785
自己株式	70,998	5,835
株主資本合計	6,247,807	6,311,434
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	209	3,387
為替換算調整勘定		1,251
その他の包括利益累計額合計	209	2,135
純資産合計	6,248,017	6,309,298
負債純資産合計	15,467,426	15,025,160

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	8,524,802	8,416,601
売上原価	3,059,038	3,059,835
売上総利益	5,465,763	5,356,765
販売費及び一般管理費	1 5,298,329	1 5,187,701
営業利益	167,433	169,064
営業外収益		
受取利息	1,019	907
受取配当金	1,165	1,157
受取地代家賃	3,548	3,669
貸倒引当金戻入額	390	108
その他	28,124	20,334
営業外収益合計	34,247	26,177
営業外費用		
支払利息	38,531	34,670
その他	5,657	4,831
営業外費用合計	44,189	39,502
経常利益	157,492	155,740
特別損失		
固定資産除却損	783	3,794
減損損失	6,301	
賃貸借契約解約損	10,369	1,556
訴訟和解金	9,000	3,250
特別損失合計	26,455	8,600
税金等調整前四半期純利益	131,036	147,139
法人税、住民税及び事業税	49,003	75,199
法人税等調整額	1,558	8,313
法人税等合計	50,562	83,512
四半期純利益	80,474	63,626
親会社株主に帰属する四半期純利益	80,474	63,626

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	80,474	63,626
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,517	3,596
為替換算調整勘定		1,393
その他の包括利益合計	1,517	2,202
四半期包括利益	81,991	61,424
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,991	61,424

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	131,036	147,139
減価償却費	301,492	286,802
減損損失	6,301	
のれん償却額	6,807	6,807
貸倒引当金の増減額(は減少)	390	108
賞与引当金の増減額(は減少)	3,100	2,300
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,995	9,055
転貸損失引当金の増減額(は減少)	6,648	6,648
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,890	3,777
受取利息及び受取配当金	2,184	2,065
支払利息	38,531	34,670
為替差損益(は益)		16
固定資産除却損	783	3,794
賃貸借契約解約損	10,369	1,556
訴訟和解金	9,000	3,250
売上債権の増減額(は増加)	54,093	51,576
たな卸資産の増減額(は増加)	28,879	204,927
前渡金の増減額(は増加)	718	2,788
仕入債務の増減額(は減少)	85,189	48,144
未払金の増減額(は減少)	5,569	38,737
未払消費税等の増減額(は減少)	31,807	41,399
未払費用の増減額(は減少)	21,071	42,595
預り金の増減額(は減少)	58,621	48,634
前受収益の増減額(は減少)	205,048	25,650
その他	40,972	9,722
小計	617,010	248,489
利息及び配当金の受取額	1,280	1,278
利息の支払額	38,071	34,634
店舗閉鎖に伴う支払額	8,270	4,478
訴訟和解金の支払額	9,000	3,250
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	59,049	90,250
営業活動によるキャッシュ・フロー	503,898	117,153

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	263,821	183,509
無形固定資産の取得による支出	22,125	17,645
事業譲受による支出	90,000	
敷金及び保証金の差入による支出	203,827	
敷金及び保証金の回収による収入	49,977	25,935
預り保証金の返還による支出	3,500	3,500
預り保証金の受入による収入	5,000	2,500
関係会社貸付けによる支出	22,986	
貸付金の回収による収入	780	216
投資その他の資産の増減額（は増加）	10,068	2,473
投資活動によるキャッシュ・フロー	560,570	178,475
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	565,000	150,000
長期借入金の返済による支出	396,138	458,050
割賦債務の返済による支出	73,258	91,678
リース債務の返済による支出	21,214	18,824
自己株式の取得による支出	233	
財務活動によるキャッシュ・フロー	74,155	418,552
現金及び現金同等物に係る換算差額		1,377
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	17,483	478,497
現金及び現金同等物の期首残高	2,435,813	2,864,532
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高		1,256
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,453,297	1 2,387,291

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した安楽亭ベトナム有限責任会社を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
減価償却費	275,172千円	260,815千円
賞与引当金繰入額	65,565千円	58,791千円
退職給付費用	13,633千円	12,972千円
役員退職慰労引当金繰入額	7,995千円	9,055千円
給料手当	2,485,098千円	2,441,196千円
地代家賃	1,019,324千円	987,617千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金	2,454,313千円	2,388,307千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,015千円	1,015千円
現金及び現金同等物	2,453,297千円	2,387,291千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,066,672	1,160,935	297,194	8,524,802	8,524,802		8,524,802
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,066,672	1,160,935	297,194	8,524,802	8,524,802		8,524,802
セグメント利益又は 損失()	378,496	96,530	13,974	461,052	461,052	293,618	167,433

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては6,301千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては37,666千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては30,408千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,005,569	1,204,408	206,624	8,416,601	8,416,601		8,416,601
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,005,569	1,204,408	206,624	8,416,601	8,416,601		8,416,601
セグメント利益又は 損失()	373,262	79,013	3,937	448,338	448,338	279,273	169,064

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	37円63銭	29円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	80,474	63,626
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	80,474	63,626
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,619	2,138,449

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小 笠 原 直 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木 村 直 人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。